

## なぜ障害者を誹謗・中傷するのか

「バニラ・エア問題」は障害者だけでなく、その家族や地域、日本社会の今を考えるうえで多くの問題を投げかけている。その一端を毎日新聞社説などで紹介したが、私の身近な家族からの長文の投稿に心が動いた。レポートでも何回か紹介してきた、林京香さんご両親によるものだ。写真は投稿で知った TBS ラジオ「荻上千キ Session-22」。7月6日の特集メインセッションは、先週放送した「バニラエアの車椅子対応を巡る問題」の反響編。今回の問題を考えるうえで参考になる番組だ。



ご両親が航空会社の「対応」以上に問題視するのが、障害当事者への誹謗・中傷である。ご夫婦も京香さんが地域の小学校に入学する前後、言われなきバッシングを受けた。そのときの「衝撃」が今回の事件にも連動して思い出されてくる。私が京香さんを最初に知ったのは、大学に勤めていた頃、たまたま読んだ中日新聞の記事だった。京香さん家族に対する、ネット上での誹謗と中傷が書かれており、記事をコピーしてゼミ生と議論したこともある。

それから4年余り。京香さんご両親の投稿に下記のような返信を送った。今回の事件について、私なりの現段階のささやかな「コメント」として。

1. 障害者差別解消法施行1年余りで、今回の「バニラ・エア問題」が起きた。まずは、交通機関における「合理的配慮」のあり方などが問われる。
2. 交通機関や障害者にも違いがあり、一般的な「マニュアル」ではなく、多様で柔軟な対応が求められる。航空会社に事前連絡が必要なケースもあれば、必要ないケースも。新幹線の場合など、とくに支援の要請されないケースでは、事前連絡など必要ない。JRなど交通機関は、障害者への柔軟な「対応」を徹底してほしい。
3. 障害者当事者への筋違いの誹謗・中傷。これも二つに分けて問題を捉える必要があるのではないか。いまの社会状況を反映して「弱い者いじめ」するようなヘイト的な風潮。もう一つは、障害者に対する「特別視」「別扱い」する傾向がまだ残っていることだ。ここにもインクルーシブ教育の必要性があるのでは。
4. それに関連して、障害当事者や家族、関係する団体のなかでの見解の「相違」や対立。「あまり目立つな」、「出過ぎたマネをするな」といった、内向きの志向。積極的に社会、行政に働きかけていくのを内部抑制してしまう。無用な「あつれき」や「対立」を生み、運動の足を引っ張ることになるのでは。ここをどう突破していくか。障害者運動やインクルーシブ教育にとっても、大きな課題なのではないか。

(2017年7月14日)